

# PRO-LIFE

中絶に反対する運動

2000年7月 No.117

胎児を守る運動

7月13日 「胎児の日」

## 日本生命尊重の日

### 胎児の人権宣言

前文

人間ひとりひとりが、受精の瞬間から自然死にいたるまで、生来の尊厳と固有の価値を有するので、今日我々は公けに以下の六ヶ条の宣言に同意する。

#### 第一条

我々は、胎児ひとりひとりが、受精以後の発育のすべての段階において、人間であるという科学的事実を確認する。

#### 第二条

我々は、本宣言に定められている権利を、人種、胎児年齢、性別、国籍、宗教、社会・経済的出自（生まれ）、障害の有無、その他のいかなる理由によっても差別することなく、尊重する。

#### 第三条

我々は、胎児が、1948年の国連の人権宣言に述べられている胎児以外のすべての人間の基本的権利と同様の権利を有することを確認する。我々は、この権利が立法によって認められることを要求する。

#### 第四条

我々は、胎児ひとりひとりが良好な胎内環境で発育する権利を有することを認める。この環境には出産までの母親の適切な保護と両親への支援を求める権利が含まれなければならない。

#### 第五条

胎児が、受精の時から、科学的、医学的、または医学的実験や利用に供されない権利を有することを確認する。ただし、この実験や利用が胎児に直接役立つ場合を除く。

#### 第六条

我々は、胎児の発育とそれに関する諸問題についての科学的事実の教育の推進に努める。また我々は、女性が子供を産み育てるのを難かしくしている社会的、経済的ならびに法律的諸条件の改善に努める。結び

以上にかんがみ、我々はすべての国際団体、政府、組織、ならびにすべての善意の人々が、ここに含まれる各箇条を公認し、実行するように強く奨める。

# 初期妊娠因子 (Early Pregnancy Factor=EPA)

ロイド・J・デュプランティス・Jr. PD

Beginnings, The Pharmacy Pro-Life News of Record  
Volumke XVI, No. 1 (113)Jan/Feb/Mar 2000 AD

『フマネ・ヴィテ』研究会 訳

初期妊娠因子=EPAはまず妊娠に関連する物質として説明され、その発見は非常な興味を持って受け入れられました。なぜなら、そのために（例えばネズミ、人間、豚、羊など）すべての実験動物で、受精後6～24時間以内に妊娠の有無を探知できるようになったからです。それまで、着床前の胎芽は沈黙の中に卵管を通ずると考えられており、母親は着床まで妊娠に気づかなかったからです。EPAの発見で、母体システムが受精の瞬間から、着床とそれに引き続く妊娠に備え始めることが明らかになりました。EPAは、母体にとって異物である胎児に対する免疫反応抑制諸因子を放出します。(1)

血清中のEPAは、生存能力のある胎芽の存在を示すものであることが分かりました。女性の体内におけるEPAの出現は、妊娠につながる性交の1～2日以内に観察されています。それと対照的に、探知可能な程度のベーター・ヒト・コリオニック・ゴナドトロフィン(β-hCG)は黄体化ホルモンのピーク後8日目の母体血清に検出されます。それでもほとんどの女性の場合、それが検出可能な量になるのは黄体化ホルモンのピーク後9～10日です。EPAは妊娠期間の大体最後の週まで母体内にありますが、必ず分娩の前には血清から検出されなくなります。(2)

着床前に、母体血清EPAは「受精卵」自体からではなく、卵巣から産出されるように見えます。現在、卵子因子についてはその細胞が比較的小さく、精子が貫通するとそれが卵子から分泌されること以外は知られていません。それは胚盤胞に発達するまで産出を続けます。(3)

EPAはロゼット抑制試験で生物検定できます。EPAがロゼット抑制試験滴定量16以上で妊娠と判断します。ロゼット抑制試験は複雑な一連のテストを含み、その結果も時としては判定が少し困難であることはわきまえねばなりません。(4)

抗EPAワクチンが実験的に使用されています。受精につながる交尾後のマウスが抗EPAワクチンで免疫化されてから10日後に解剖すると、顕著な胎芽喪失が見られました。(5) 小さなグループではありましたが、避妊リング使用者を対象にした研究で、その半数でEPAが陽性になり、その後陰性に転じました。その意味は着床の際に避妊リングには中絶促進作用があることを示します。(6)

EPAは妊娠極初期の胎芽発育のために必要とされます。現在のところ、EPAは受精成立、従って受胎を示す最初の血清ベンチマークです。ロゼット抑制試験は高価で、まだ進歩の余地もありますが、ホルモン避妊剤を使用している女性たちを対象にした研究は、排卵と受胎がどの程度の頻度で起こるか、従ってどの程度の頻度でこれらの妊娠が流産に終わるかという問題に、決定的に答えることになるでしょう。お察しのとおり、このような研究に金をかけるだけの資力のある製薬会社は、その結果である情報に興味があるわけがありません。明白なマーカーが出現した現在、PFLI(Pharmacists for Life International)つまり、生命を大事にする薬剤師国際連盟は、避妊ピルによってどの程度の中絶が起こるかという歴史上最重要な問題の一つに明白で簡潔な回答を出すために、このような研究が実施されるよう声を大きくして主張しています。

## Notes

1 Morton, H. et al. (1992), Early Pregnancy Facotr. Seminars in Reproductive Endocrinology, May 1992, Volume 10, Number 2, p.72..

2 ibid.

3 ibid. p.73.

4 ibid. p.74

5 ibid. p.79

6 Ortiz, M. et al. (1996), Mechanisms of Action of Intrauterine Devices. Obstetrical and Gynecological Survey, 1996, Volume



# 「フマネ・ヴィテ」は愛への挑戦

ジャネット・E・スミス

## 回勅『フマネ・ヴィテ』

### — 愛への挑戦

教会はその歴史の初めから避妊に関して「常に明白に」反対でした。

回勅『フマネ・ヴィテ』に向けた敵意が余りにも大きいので、人工避妊が初代教会のころから論争点であったと初めて聞いた人はあつげにとられるほどです。一九三〇年八月十四日、英国国教会は重大な理由があれば夫婦が避妊することは許されることと決定したのですが、キリスト教諸派はそれまで避妊に関して一致して反対していたのです。教皇ピオ十一世は同年十二月三十一日、回勅『カステイ・コンヌビイ』で、避妊は本質的に悪であるというカトリック教会の伝統的教えを確認なさいました。

一九三〇年以來、この点について論争が絶えなかったであろうとわたしは思いがちですが、事実は違っています。この時期の調査によると一九六〇年代初期まで合衆国に住む65%のカトリック信者は教会の教えに従っていました。ジョン・ヌーナ著の「人工避妊」には避妊に反対する教会の教えの歴史を詳細に伝えています。それによると、

たという議論を繰り広げました。教皇ヨハネ二十三世はこれらの問題に関して助言を求め、六人の神学者からなる委員会を設置しました。その後継者教皇パウロ六世は委員会を引き継ぎ、幾組かの夫婦と各分野から多数の専門家の参加を得て、それを拡充し始めました。この委員会の過半数が教会はそれまでの教えを変更すべきであるという意見に賛成しました。委員会の少数意見は、それは人間の法ではなく神の掟であるので、教会であつてもだれであつても避妊が道徳的に許されると宣言するべきでないどころか、それを変更することは不可能であるといふものでした。委員会のそれ以外の記録も含めて、この票決の結果と勧告の内容は教皇だけが目にするはずでした。委員会が作業を終えたのは一九六六年のことでしたが、一九六七年、委員会の最終勧告も含めてすべての記録はロンドンのカトリック雑誌タブレットと米国のナショナル・カトリック・リポーターにリークされてしまいました。

事情に詳しい人たちはこの委員会のことを心得ており、何年も前から教会の決定を待ち望んでいました。一九六三年から一九六七年にかけて、避妊に関する記事が数多く雑誌に掲載されたものですが、そのほとんどは避妊に賛成する記事でした。例えば、そのころある大司教が書いた本の題名は「避妊と教皇」というものであり、その内容は結婚した人々とか避妊に賛同する人たちの記事を集めたものでした。委員会の報告は疑いなくこのような反対を扇動するためリークされ、案の定、それは変化を希望する人たちの期待をおつたものです。

## 回勅『フマネ・ヴィテ』 が出会った反対

(回勅『フマネ・ヴィテ』への公然たる反対は、教会史の流れの中でまるで分岐点のようでした。この現象はそれまでの間見えないうところで煮えだぎっていたものが結晶化したか、それ以後に来るはずであったもろもろの反論のカタリスト(触媒)であつたかのどちらかでしょう。)

一九六八年七月、回勅『フマネ・ヴィテ』が発表されたときは、まるで爆弾が落ちてきたかのような騒ぎになったものです。もちろん回勅への強い支持はありましたが、これ程の反論を呼び起こした回勅はかつてありませんでした。反対の先鋒は主にチャールズ・ケラン神父とベルナルド・ヘーリング神父でした。

それは教会史に残る歴史的、決定的瞬間であつたとさえ言えます。反対がまるで流行のようにならなくなりました。回勅『フマネ・ヴィテ』以前にこのような現象は見られませんでしたが、どのような問題に関してであつても、反対意見の神学者たちがこれほど公然と教職の指導に反抗したことはかつてありませんでした。回勅『フマネ・ヴィテ』への公然たる反対は教会史の流れの中でまるで分岐点のようでした。この現象はそれまでの間見えないうところで煮えだぎっていたものが結晶化したか、それ以後に来るはずであつたもろもろの反論のカタリスト(触媒)であつたかのどちらかでしょう。すぐに、神学者だけでなく後には一般信徒までもが避妊についてだけでなく、同性愛、自慰行為、婚外セックス、離婚、その他多くの問題に関して反対しなくてもよいではないかと言いはじめました。

カトリック信徒の避妊を良しとする人々の間における広範囲な避妊の実施にもかかわらず、教会は避妊を重大な道徳的悪として常に繰り返してきています。教皇ヨハネ・パウロ二世は避妊への反対をその教皇職の基礎に据え、この点に関して多くの文書を書き、事あるごとに発言しておられます。(4ページへ)

## 避妊が社会に

### もたらす影響

「回勅『フマネ・ヴィテ』は、避妊法の普及が必ず道德低下をもたらすと予言していました。さて、特に性的分野で現代の道德低下は明らかであると思えます。」

過去二、三十年の経験から判断すると、避妊が社会にももたらす悪影響は、性に関する問題がよく見えるようになった。今、教会がこの教えを常に教え続けてきたのは非常に賢明であつたと思えます。例えば、それは望まれない妊娠と妊娠中絶の原因となつた性の革命に道を開きます。それはまた男性が女性を性的に利用しやすくしています。実に、回勅『フマネ・ヴィテ』は、避妊法の普及が必ず道德低下をもたらすと予言してきています。さて、特に性的分野で現代の道德低下は明らかです。性の革命がもたらした諸悪を、ことさらにいろいろ統計を持ち出してきて証明する必要はないでしょう。十代の妊娠、性病、離婚、エイズ、その他が疫病のように急増していることはだれでも知っています。

西欧社会の性行動は急速に変化しましたが、それが良い方向

に変化したと思つてゐる人は少ないはずで、例えば、わずか十年前まで三組に一組の夫婦が離婚してゐたのに、今では二組に一組の夫婦が離婚してしまつてゐます。

わづか十年前、十代少女十人のうち四人が性的に活発であつたのに、今はもうそれが六人になつたと言われます。白人の赤ちゃんの二二%、黒人の赤ちゃんの六七%は婚外子です。過去十年だけで何百万人の赤ちゃんが中絶されました。エイズも蔓延しています。これだけでも、性に関して大変な問題をわたしたちが抱え込んでゐることがよく分かります。十年前の統計はすでにひど過ぎるもので多くの人は事態がこれ以上悪化するのではないと思つたものです。二十年前も、三十年前も多くの人は同じように思つてゐました。この一世代の間に婚外性活動の頻度と付随の諸問題は二倍、三倍、いやそれ以上に増加しました。性に関連する問題の増加がその頂点に到達したと考える理由は特にありません。

### 未熟なセックス

「未熟で不特定多数相手のセックスは良い結婚と良い家庭生活の敵。」

世界中に拡散してゐる性的不道德に付随する諸悪を、統計的に

計測することはできません。未熟で不特定多数相手のセックス

は良い結婚と家庭生活の敵です。人間の幸福と福祉にとつて健康なセックスと強固な家庭生活は欠かせません。強く、揺るぎない家庭にはアルコール・セックス、麻薬の問題が少なく、そういう家庭の子どもはノイローゼとか精神病には大方無縁です。健康な人たちは自分自身の問題で手一杯になることがないので、彼らは強力なリーダーになり、社会の問題と正面から取り組むことができます。片親家庭で多くの親たちが子どもを育てるために英雄的努力をしていることは確かでしょうが、悲しいことに崩壊家庭の子どもたちは、成人しても犯罪率が高く、アルコールとか麻薬中毒になるとか心理学的障害に悩まされる傾向が比較的高いことは否めません。

### 深く理解

「教会による避妊の断罪は何世紀もの間挑戦を受けることがありませんでした。現代、この断罪の理由を説明しながら、教会は結婚とその意味、性行為の意味を更に深く理解するようになってゐます。」

教会が避妊を断罪するのはそれに悪影響が付随するからでは

ありません。そうではなく、教会

は避妊が本質的に邪悪な行為であるので、悪い影響が伴うと教えます。教会は、それが人間の性行為に属する目的と本質に反し、それ故に人格の尊厳に反するので、避妊が悪であると教えます。過去何十年かの経験は教会の教えがいかに英知に溢れるものであるかをひたすら証明するのに役立ちました。しかし、わたしたちは教会の教えを実践的レベルでより深く理解できただけでなく、理論的理解も進歩を見せています。挑戦を受けるまで、教会はなぜ特定の教えを教えるのかその理由を十分に理解してゐないことが多いのです。教会による避妊の断罪は何世紀もの間挑戦を受けることがありませんでした。現代、この断罪の理由を説明しながら、教会は結婚と性行為の意味を更に深く理解するようになってゐます。教皇ヨハネ・パウロ二世が性行為が完全な自己贈与の意味を減じると主張なさつたお陰で、わたしたちは避妊がどれほど悪いことであるか更に深く理解することができるようになってゐます。

「婚姻行為にあるべきなを大きくむ側面と生殖にかかわる側面は不可分の関係にあり、両側面とも婚姻行為に内在します。神がお定めになつたこの関係を人が恣意的に破壊することは許されません。」 回勅『フマネ・ヴィテ』

避妊が悪であるかどうかを、教会が断固として常に教えてきたかいくつかの文書で調べてみましょう。回勅『カステイ・コンヌビイ』は以下のように教えます、「どれほど重大な理由があつたとしても、本質的に自然に反してゐるものが自然に即したもものなつたり、道徳的に良いものになつたりすることはありません。婚姻行為は第一義的に、またその性質からして子どもを目的としてゐるので、その自然の目的と性質を意図的に挫折させる者は、自然に反する罪を犯し、恥ずべきそして本質的に悪である行為を犯すことになります。」更に続けます。

「いのちを生み出す自然の力を意図的に挫折させるどのような婚姻行為の方法も、神と自然の法に反する罪であり、そのような行いをするものは大罪を免れることができません。」 回勅『フマネ・ヴィテ』(11) はこれを以下のように教えています。「その伝統的教えをおして自然法を

### 避妊の悪に関する

#### 教会の教え

解釈する教会は、結婚している人々が自然法に基づいた教えに従わなければならない、また個々の婚姻行為はそれ自体においてのこの誕生に向けられていることが必要であることを思い起こさせます。

同回勅は更に以下のように続けます(12)。「教会教導職がしばしば説明している教えですが、(婚姻行為にある)きずなをばくくむ側面と生殖にかかわる側面は不可分の関係にあり、両側面とも婚姻行為に内在します。神がお定めになったこの関係を人が恣意的に破壊することは許されません」。

### いのちの贈り物

「セックスは赤ちゃんと男女のきずなを生み出すためにあります。もし赤ちゃんもきずなもいらないのであれば、性行為はあるべきではありません。現代人には赤ちゃんを神からの贈り物としてでなく、重荷として受け止める傾向があります。受胎能力はまるで気を付けて治療しなければならぬ病気のようです。」

教会は、赤ちゃんと男女のきずなを生み出す人間の性行為にある両側面を侵害する避妊行為

を断罪します。避妊は性行為から本質的に重大な意味を減じてしまします。性行為は新しい生命を創造し、男女間に強い感情的きずなを作り出す可能性を秘める行為ですが、避妊行為はその可能性をなくす行為であります。セックスは赤ちゃんときずなを生み出すためにあります。

もし赤ちゃんもきずなもいらないのであれば、性行為はあるべきではありません。現代人には赤ちゃんを神からの贈り物としてでなく、重荷として受け止める傾向があります。受胎能力はまるで気を付けて治療しなければならぬ病気のようです。現代人はしばしば「妊娠のおそれ」を口にしますが、変な話だと思いませんか？ 貧困、核兵器による大量殺傷、独裁制のおそれなら理解できますが、なぜ妊娠をおそれなければならぬのでしょうか？ また「偶然に妊娠した」という言い方も耳にします。しかし、それでは妊娠がまるで交通事故のようなひどい事故のようではないでしょうか？

しかしもし性行為の結果妊娠したのであれば、それが意味するのは何かとんでもないことが起こったのでなく、性行為に正常な結果が伴ったということです。現代人は、もし赤ちゃんを産む準備ができていないのであれば、性行為の準備もできていないとい

いう基本的真理を見失っています。性行為、男女間の愛、赤ちゃんを産むことは十分な理由があつて、互いに本質的に関係していることを見失っています。

現代人は性的関係を余りにも軽く考えすぎ、異性との性行為が決して責任を意味するわけではありませぬ。赤ちゃんは性行為に侵入してくる歓迎されざる客でしかないと思つていきます。教会はこのような態度に反対し、性行為と子どもが密接に結ばれており、性行為は重大な責任を伴い、子どもたちはその責任の本質的部分であり、責任も子どもたちもすばらしい贈り物であると主張します。

### 避妊に伴う負の側面

決して忘れてならないのは、受胎能力がすばらしいものであるということ。大人の女性にとつて受胎能力があるのは健康な証拠です。受胎能力がない人たちがこそ専門医による不妊治療を必要とします。現代、女性は受胎能力をそぐために「避妊ピル」を服用しますが、これではまるで受胎能力は治療を要する病気のようではありませんか？

避妊は女性の健康な体を、それがあたかもどこか悪いので治療を要するかのように取り扱

ことです。避妊行為の意味は、神が女性の体を創造したときの不具合をわたしたち人間が訂正しなければならぬ、ということ

です。汚染物質を環境に廃棄しないように気を付ける時代に、女性が自分の体内に熱心に汚染物質を取り込むのは皮肉な現象です。避妊ピルの箱に付いてくる説明書を一見すれば分かるように、避妊が女性の健康にもたらす危険はかなりのものです。製造会社に対する訴訟が相次いだために、避妊リング(UD)は現在もはや市販されていません。自然な家族計画なら安全でもあるし、信頼性もあるというのに、女性たちはなぜこんな危険に身をさらすのでしょうか？

更に、かなりの避妊手段には中絶促進作用があることも付け加えねばなりません。これらは極初期中絶の原因になります。これらの手段には排卵を抑制するのでなく、受精卵つまり小さな人間が子宮内壁に着床できないようにする作用があります。避妊リングにはこのような機能があります。ノルプラントとか(時としては)避妊ピルにも同じ作用があります。ですから、中絶に反対する人、女性の幸せを大事に思う人であればこれらの避妊法を使用したくないでしょう。その他の方法は信頼性がそれほどありません。

ですから、避妊は性行為にとんでもない否定的雰囲気を持ち込みます。しかし、性行為は相手

を肯定する最高に驚嘆すべき行為、配偶者に対して心から「イエス」と言つ行為、相手に対して、彼もしくは彼女がすばらしい人であることを分らせる行為であるべきです。自分が完全に受け容れられていることを相手に理解させるのが性行為です。このメッセージは自分を余すところなく相手に与えることで伝わるものです。ところが、避妊する男女が発するメッセージはわたしはあなたに自分を上げたいけれど、受胎能力だけはあなたと分かち合いたくない、あなたは欲しいけれどあなたの精子(卵子)はお断り、ということではありませぬか？

避妊(Contraception)という言葉について考えてみましょう。それは「始まりに反対」つまり新しいいのちの始まりに反対するという意味です。ですから、避妊する男女は新しいいのちを生み出すように神が計画した行為を出しながら、新しいいのちを阻んでいきます。彼らは愛し合うのでなく、まるで戦争でも始めるかのように、防御のために精子を殺傷する「障壁」を装着します。これを果たして愛の行為と呼ぶことができるでしょうか？

### 夫婦は神と共に創造者

「避妊は神に向かって「ノー」と言うことです。つまり、避妊する男女は性的肉体的快楽は望んでも、神に創造の業をさせることを拒むのです。」

わたしたちは、新しい人間を生み出せることがどれほど素晴らしいことであるか忘れていません。神は夫婦の愛を通してこの世に新しい人間のいのちを生み出す選択をなさいました。全世界はわたしたちのために、そしてわたしたちと似た全ての人たちのために創造されました。神はご自分が創造なさった世界を新しい人間とも分かたつことを望み、男女の愛を通して新しい魂をこの世にもたらされます。神は世界を愛の業として創造なさいました。新しいいのちをこの世にもたらすことがもう一つの愛の業の産物であることは理にかなっています。男女が協力して子どもを設けるとき、もはや決して存在を失うことのない何者かが新しく存在するようになるので、それは宇宙を変えてしまうほどの出来事です。一つ一つの魂は不死であり、永遠のいのちに召されています。

そして、新しいいのちが存在するようになると、神だけが不死の魂を創造できるのですから、神は新たに創造の業を繰り返されます。性行為の際に、夫婦は神にその創造の業を行う機会を提供します。回勅『フマネ・ヴィテ』の冒頭にあるように、神は夫婦にいのちを伝達する使命をお与えになります。避妊は神に向かつて「ノー」と言うことです。つまり、避妊する男女は性的肉体的快楽は望んでも、神に創造の業をさせることを拒むのです。

### 避妊は性行為に付随する

きずな形成の側面を侵す

【プロ・ライフニュース】  
[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】  
[201] 生か死..... + 郵送料  
[202] 第二の処女生..... + 郵送料  
[203] デート..... + 郵送料  
[204] どうするの?..... + 郵送料  
[205] "NO"という技術..... + 郵送料  
[206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料  
[207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料  
[208] していましたか..... + 郵送料  
[209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料  
[210] 貞節のすすめ..... + 郵送料  
[211] 中絶行為は女性を解放しない!..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】  
[301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料  
[303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料  
[304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料  
[305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料  
[306] ミニソフィアAce エース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】  
[401] 沈黙の叫び....(VHS/Beta).....7000 + 郵送料  
[403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta)....7000 + 郵送料  
[404] いのちーおくりもの.....(VHS)....13000 + 郵送料  
[407] 命美しいもの = one&only.....(VHS)....20000 + 郵送料  
[409] 聞こえる? 天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料  
[410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS)...15000 + 郵送料  
[500] (本) 生命問題に関する... (カトリックの教え)...2987 + 郵送料  
[501] (本) 自然な家族計画... (ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料  
[503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料  
[504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料  
[505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料  
[506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ)....650 + 郵送料  
[507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料  
[508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料  
[509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料  
[511] (本) 赤ちゃん: 最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料  
[512]本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料  
[513]本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料  
[514]本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料  
[515] (本) 経口避妊薬: ピル.....100 + 郵送料  
[516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

「複数相手のセックスを望むのはたやすいことでも、普通であれば、赤ちゃんを作る相手は一人の人間とだけにしておきたいものです。君とはセックスしたいだけなんだ」もしくは「君と一緒にになって子どもの親になりたい」という体の言葉には全く異なる意味が込められます。」

避妊が間違っているのは、それが性行為にある産児の側面だけでなく、きずな側面も冒すからです。教皇ヨハネ・パウロ二世は、避妊をする夫婦がなぜ性行為の際に真の夫婦の一致に至らないかを熱心に説明なさいます。教皇によれば、性行為は自分を与え尽くす行為であるはずですが、ですから自分の受胎能力を配偶者に拒むことは相手に自分を与え尽くさないことになるのです。教皇は「体の言語」という興味深い言い方を駆使してそれを論証な

さいます。その主張によれば、体の動作には言葉と同様に意味があります。わたしたちの行為に意味が込められていないのであれば、言葉でうそをついてはいけないのと同じく、そういう行為は控えるべきであると言われます。両方の場合とも、うそをつくことになるのです。

性的一致にはだれでも認める意味があります。それが意味するのは「君は魅力的だ」、「君が好きだ」、「君を幸せにするよう努力するよ」、「君との間に強いきずなが欲しい」ということです。ある人たちは性行為の際にもこういうことを言うつもりがありません。彼らは単に自分の性的欲望を満たすために相手を利用しただけです。彼らは自分の体でうそをついていきます。それはちょうどある人にとすらすらに何かをしてもらいたいから口先だけ

- [511] 赤ちゃん: 最初の十ヶ月の旅
- [515] 経口避妊薬: ピル

注文:	1 - - - - - 5	1部 = ¥ 100
	6 - - - - - 20	1部 = ¥ 75
フルカラー	21 - - - - 999	1部 = ¥ 50
	1000 - - 以上	1部 = ¥ 35

パンフレット申し込は・・・			
1 ~ ~	5	1部 = 35円	組み合わせは自由です
6 ~ ~	100	1部 = 25円	
101 ~ ~	500	1部 = 20円	
500 ~ ~	以上	1部 = 15円	

「あなたを愛しています」といふのと同じです。複数相手のセックスを望むのはたやすいことでも、普通であれば、赤ちゃんを作る相手は一人の人間とだけにしておきたいものです。「君とはセックスしたいだけなんだ」もしくは「君と一緒にあって子どもを親になりたい」という体の行為は同じに見えても、その言葉は全く異なります。一般的に、わたしたちは一緒に子どもを産み、育てたいと思う人を真に愛し、全生活がその人の生活とかかわることを望むものです。

わたしたちは子どもがいることで互いに一つになるような方法でそのような人と一つになりたいたいのです。わたしたちは全生活がその人の全生活と絡み合うほどに一つになることを望みます。

その人と共におしめを買いに行きます。その人と共に御誕生会をします。その人と共に子どもたちを学校に出し、彼らの結婚式の準備をします。避妊などしない性行為の意味は「幸せなときもそうでないときも、病気のときも健康なときも、死がわたしたちを分かちまで」という結婚式の誓いの言葉のとおりです。

共に子どもを設けることはその人と一生の仕事を分かち合うことにほかなりません。

産児の可能性に開かれた性行

為は夫婦が同意したあのきずなを象徴しています。人工避妊はその反対に、性交は欲しても、相手との永久的きずなが欲しくないとというメッセージを伝えます。永久的なきずなの可能性が、正にそのようなきずなの望みを最もよく表現するはずの行為から、意図的に取り除かれてしまっています。その性行為はうそになってしまいます。

ですから、避妊は神にも、相手にも、自分の体にも逆行行為となるのです。

### 自然な家族計画(NFP)

「NFPを実行している夫婦はほとんど離婚することがありません。彼らには避妊する夫婦より強いきずながあるようです。」

夫婦は物理的に可能な限りたくさん子どもを設けなければなりませんか？ これは決して教会の教えであつたことがありません。夫婦には子どもの養育について責任を持ち、よく育てることができるだけの子どもの産むことが期待されています。

しかし家族のサイズを制限する方は道徳的なものでなければなりません。家族のサイズを決定するために、NFPは非常に効果があり、道徳的な方法です。この方

法によつて夫婦は希望するとき

に妊娠することができ、また妊娠することが無責任であると感

じます。NFPを実行する夫は妻の体をいたわり、妻を完全に尊敬し、妻と共に神に従うことができます。

NFPは、今はもう廃つてしまったカレンダーに基づくリズム法ではありません。それどころか、NFPは種々の徴候に基づいて女性が受胎可能である期間を知る非常に科学的な方法です。妊娠を避けたい夫婦は受胎可能期に禁欲します。NFPの信頼性に関する統計は最も効果があるとされる避妊ピルよりも高いことが分かっています。それだけでなく、それには健康を害する危険が皆無であり、しかも経済的で道徳的です。

NFPを実行する夫婦は、それが自分たちの夫婦関係に、また神との関係にも良い結果をもたらすと証言します。夫婦が受胎可能期に禁欲しても、彼らは性交を控えているわけですから、性交の行為を無に帰しているわけではありません。不妊期に性交があつても、その時期は受胎が可能でないのですから、彼らは自分たちの受胎能力を抑圧していることにはなりません。彼らは自分たちに内在する自然のリズムに従つて生きることを学

びます。一口に言えば、受胎可能期に禁欲するNFPの実行は非生殖的行為ではあり得るでしょうけれど、それは決して反生殖的行為ではありません。

多くの人々は、定期的禁欲が結婚にとつて害になるところか、非常に有益であるのが不思議であると感じます。しかし、ちょうど結婚していない人たちが、性交によつて一定の危険がもたらされるような人たち同士にとつてそうであるように、禁欲はもう一つの愛の表現であり得ます。確かに、NFPを実行し始める人たちはほとんど、特に結婚前に純潔でなかつた人たちと

私たちは、一般的に言つて、要求される禁欲を重荷に感じたり、いらいらしたりすることはありません。もちろん、禁欲は食事制限とかほかの克己の業と同じく困難ではありますが、食事制限とかほかの克己の業と同じく、それには利点もあります。そして考えてみると、夫婦は、例えば片方が旅行で家にいないとか病気で

あるとか、いろいろな理由のために禁欲を強いられるのは日常茶飯事ではありませんか？

NFPを使用する夫婦は相互の意志疎通が格段に良くなり、禁欲がそうさせるのです。また、自分たちの愛情を性交以外の手段で伝えることを学ぶ彼ら

は、性交を控える能力のおかげで新たな解放感を持ちます。多くの夫婦は禁欲期間にロマンズの要素が再登場したと感じます。更に、禁欲期間が終わつたときに彼らは再度ハネムーンの興奮を味わいます。一般的に、NFPを実施する女性たちは不健康で不快な避妊剤の使用を夫から要求されないの、夫から尊敬されていると感じます。夫たちも自分の性欲をコントロールする能力を得て、単なる性欲のほけ口としてでなく、愛の行為としての性交ができるようになるので、以前に増して自尊心が高まります。NFPがどれほど結婚にとつて有益であるかは、米国で50%以上の結婚が離婚に終わるのに比べて(離婚する夫婦は

大方避妊の経験があると推定されます)、NFPを実行している夫婦はほとんど離婚することがないことから分かります。彼らには避妊する夫婦より強いきずながあるようです。

⑫

### なぜ人工避妊を断罪するか？

「人工避妊が本質的に悪であると教えるとき、教会はカトリック信者に懲戒を含む法律を押しつけているのではなく、自然と福

(8ページへ)

音が教えていることを伝えていただけです。」

教会は夫婦に性の快楽を禁止したいからではなく、彼らが結婚の幸福を見いだし、幸せな家庭を築くことを望むからです。そういうこと無しに、個人また社会の幸福は非常に危うくされるからです。以下に回勅『フマネ・ヴィテ』（十八）を引用します。

「…教会は、神であるその創立者と同様に『さからいの印』にされることを不思議とは思いません。そのため、教会は、謙虚に、しかし確固として、すべての自然のおよび福音的道徳法を宣言するつとめをおこなわないのであります。もとより、教会は、このふたつの法の立法者でもなければ、その裁決者でもありません。ただその守護者であり、解釈者であるにすぎません。したがって教会は、事実不正であることを正当であると宣言することはできません。それは、本性上人間の真の価値にいつも反するからであります。

結婚倫理の全き姿を守ることによって、教会は自分が、人間社会の真の文化を建設するために貢献することを知っています。」

人工避妊が本質的に悪であると教えるとき、教会はカトリック信者に懲罰を含む法律を押しつけているのではなく、自然と福音が教えていることを単に伝えているだけです。これほどひどい目にあつたわたしたちは、自然の掟に反抗してまでセックスにふけつたりしないで、自然と神の掟に反すること

は、わたしたち個人また社会に手ひどい損害をもたらすことを理解してもよさそうなものです。

ジャネット・E・スミス女史はダラス大学で哲学を教えており、またロックフォード・インスティテュートのメイン・ストリート委員会の一員です。The Family in America 掲記に掲載されたこの記事は一万ドルのエミー随筆賞を獲得しています。

